

(10) 小児医療

① 第6次愛媛県地域保健医療計画の進捗及び評価

小児医療については、小児科医の不足が深刻化する中で、集約化・重点化を進めながら、限られた医療資源を有効活用することによって、地域に求められる医療機能の維持・確保が求められてきました。

県では、第6次愛媛県地域保健医療計画で以下の数値目標を掲げ、小児救急医療電話相談事業の実施やかかりつけ医の普及啓発、地域小児・周産期学講座の設置、小児先天性心疾患患者に対する地域医療連携システムの確立等、小児医療の提供体制の整備に向けた各種事業に取り組んできました。

各数値目標を見ると、新生児・乳児・小児の死亡率等は目標値に達していますが、小児科を標榜する病院数・診療所数に改善が見られない状況です。

また、医師数を見ると全体的には増加傾向にあります。が、地域間の偏在は依然として深刻であり、地域の小児医療に必要な提供体制の維持・確保について、引き続き地域の実情に応じた体制整備に取り組む必要があります。

〔第6次愛媛県地域保健医療計画 小児医療 数値目標〕

指標名	集計単位	第6次計画作成時点			最新値		出典	評価
		集計値	目標値	達成年度	集計値	時点		
新生児（4週未満）死亡率（出生数千対）	県	0.4	0.4以下	H29年度	0.2	H28	人口動態調査	◎
乳児（1歳未満）死亡率（出生数千対）	県	1.7	1.7以下	H29年度	1.6	H28	人口動態調査	◎
乳幼児（5歳未満）死亡率（乳幼児千対）	県	0.4	0.4以下	H29年度	0.5	H28	人口動態調査	△
小児（15歳未満）の死亡率（小児人口千対）	県	0.2	0.2以下	H29年度	0.2	H28	人口動態調査	◎
診療科目で「小児科」を標榜している病院数	県	40	40以上	H29年度	38	H26	医療施設調査	△
	宇摩	3			2			
	新居浜・西条	9			8			
	今治	6			6			
	松山	12			12			
	八幡浜・大洲	3			3			
	宇和島	7			7			
主たる標榜科で「小児科」を標榜している診療所数と単科で「小児科」を標榜している診療所数の合計	県	75	75以上	H29年度	74	H26	医療施設調査	△
	宇摩	6			6			
	新居浜・西条	12			9			
	今治	11			10			
	松山	32			33			
	八幡浜・大洲	9			9			
	宇和島	5			7			
小児医療に係る病院勤務医師数（科目別医師数の「小児科」と「小児外科」の合計）	県	100.3	100.3以上	H29年度	113.9	H26	医療施設調査	◎
	宇摩	4.0			4.1			
	新居浜・西条	14.7			15.9			
	今治	9.5			8.4			
	松山	60.0			71.5			
	八幡浜・大洲	2.5			2.4			
	宇和島	9.6			11.6			
小児科標榜診療所に勤務する医師数	県	234.4	234.4以上	H29年度	92.5	H26	医療施設調査	△
	宇摩	17.5			6.1			
	新居浜・西条	40.3			10.0			
	今治	24.1			12.0			
	松山	80.2			46.1			
	八幡浜・大洲	44.4			10.0			
	宇和島	27.9			8.3			

小児科標榜休日夜間急患センター数	県	5	各二次医療圏1以上	H29年度	6	H29.4.1	県調べ	○
	宇摩	1			1			
	新居浜・西条	1			1			
	今治	1			1			
	松山	2			2			
	八幡浜・大洲	0			1			
	宇和島	0			0			
小児科標榜休日夜間急患センター数(深夜帯においても診療しているもの)	県	2	各小児医療圏1以上	H29年度	3	H29.4.1	県調べ	○
	宇摩	0			0			
	新居浜・西条	1			1			
	今治	0			1			
	松山	1			1			
	八幡浜・大洲	0			0			
	宇和島	0			0			
小児救急医療支援事業を実施している二次医療圏数	県	2	各小児医療圏1以上	H29年度	2	H29.4.1	県調べ	○
	宇摩	0			0			
	新居浜・西条	0			0			
	今治	0			0			
	松山	1			1			
	八幡浜・大洲	0			0			
	宇和島	1			1			
連携病院数(別表参照)	県	8	8以上	H29年度	7	H29.4.1	県調べ	△
	宇摩	2			1			
	新居浜・西条	2			2			
	今治	1			1			
	松山	1			1			
	八幡浜・大洲	1			1			
	宇和島	1			1			
連携強化病院数(別表参照)	県	5	5以上	H29年度	4	H29.4.1	県調べ	△
	宇摩	0			0			
	新居浜・西条	1			0			
	今治	1			1			
	松山	2			2			
	八幡浜・大洲	0			0			
	宇和島	1			1			
NICU(新生児集中治療室)を有する病院数	県	5	各小児医療圏1以上	H29年度	5	H26	医療施設調査	○
	宇摩	0			0			
	新居浜・西条	1			1			
	今治	1			1			
	松山	3			3			
	八幡浜・大洲	0			0			
	宇和島	0			0			

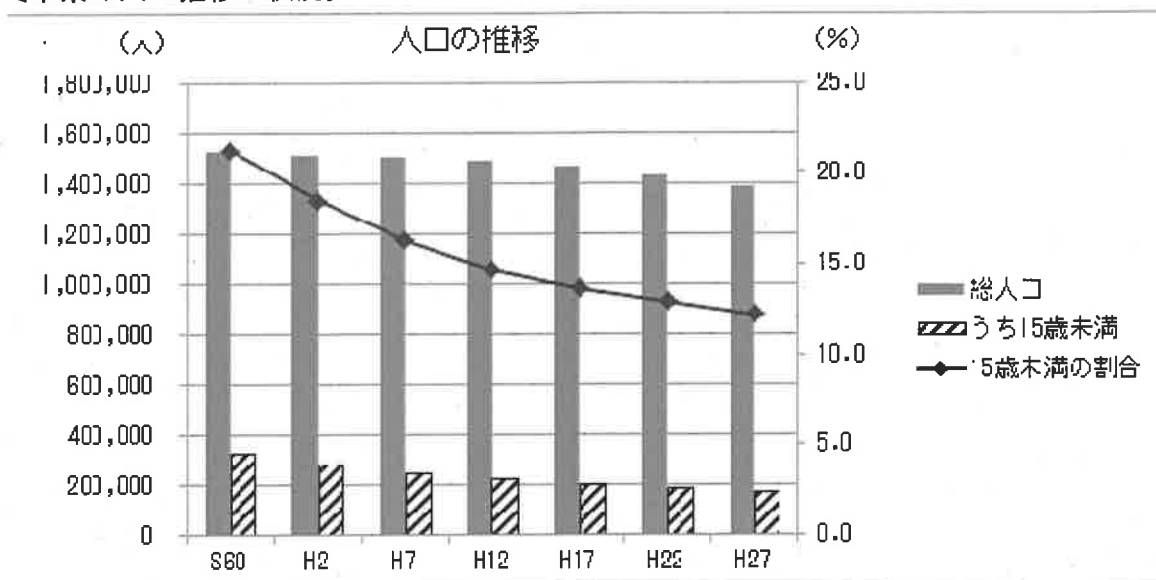
【評価】◎：目標値に達している、○：目標値には達していないが改善に向け推移している、△：改善がみられない、－：評価できない

②概況

▼人口等

- ・平成27年の15歳未満人口を見ると169,110人(人口全体の12.2%)で、平成22年の185,179人(人口全体の12.9%)から16,069人(減少率8.7%)減少しており、年々少子化が進行しています。

〔本県の人口推移の状況〕



(総務省「国勢調査」)

- ・二次医療圏別に見ると、15歳未満人口に大きな差が生じているほか、圏域に占める15歳未満の割合を見ても新居浜・西条圏域 13.0%と宇和島圏域 10.6%で地域差が生じています。

〔年少人口の状況〕

二次医療圏	総人口	うち15歳未満	15歳未満の割合
宇摩	87,413	10,741	12.3%
新居浜・西条	228,077	29,669	13.0%
今治	165,249	19,364	11.7%
松山	646,055	81,333	12.6%
八幡浜・大洲	144,324	15,870	11.0%
宇和島	114,144	12,133	10.6%
合計	1,385,262	169,110	12.2%

(総務省「国勢調査」)

- ・本県の合計特殊出生率を見ると、平成19年の1.4と比べ平成28年は1.54と増加傾向にあり、全国値よりも高い結果となっています。

〔合計特殊出生率の推移〕

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
全国	1.34	1.37	1.37	1.39	1.39	1.41	1.43	1.42	1.45	1.44
愛媛	1.4	1.4	1.41	1.5	1.51	1.52	1.52	1.5	1.53	1.54

(厚生労働省「平成28年人口動態調査」)

- ・子どもがいる世帯であって夫婦ともに就業している世帯は夫婦のいる一般世帯の約30%を占めており、子どもの時間内受診等子育ての難しさがうかがえます。

〔共働き世帯の状況〕

	世帯数 ①	夫婦ともに就業		割合 ②/①
			うち子どもあり②	
H17年	349,068世帯	154,793世帯	101,183世帯	29.0%
H22年	336,100世帯	145,332世帯	93,894世帯	27.9%
H27年	319,869世帯	148,401世帯	95,154世帯	29.7%

(総務省「国勢調査」)

▼疾病構造等

- ・本県における平成26年の小児（0歳から14歳まで）の一日当たり患者数（推計）を見ると、入院で約300人、外来で約8.2千人となっています。
- ・入院は約300人程度で推移していますが、外来は平成14年と比較するとやや増加傾向にあります。

〔小児の推計患者数〕

(千人)

		H14	H17	H20	H23	H26
全国	入院	37	33.5	31.4	29.4	28.1
	外来	635.1	744.6	698.8	789.7	738.5
愛媛県	入院	0.4	0.3	0.4	0.3	0.3
	外来	7.1	10	8.4	9.3	8.2

(厚生労働省「平成26年患者調査」)

- ・本県の平成26年入院患者数（推計）のうち、妊娠期間及び胎児発育に関する障がいや周産期に特異的な呼吸障がい、心血管障がい等を含む周産期に発生した病態によるものが33.3%、肺炎や急性気管支炎、喘息等を含む呼吸器系の疾患によるものが33.3%と多くなっています。(厚生労働省「平成26年患者調査」)
- ・本県の平成26年外来患者数（推計）では、急性咽頭炎や急性扁桃炎、喘息等を含む呼吸器系の疾患が45.1%、育児不安や小児の成長発達上の相談、予防接種等の健康状態に影響を及ぼす要因、保健サービスの利用が13.4%、う蝕を含む消化器系の疾患が9.8%、アトピー性皮膚炎を含む皮膚及び皮下組織の疾患が7.3%、腸管感染症を含む感染症及び寄生虫症が6.1%となっています。(厚生労働省「平成26年患者調査」)
- ・本県の入院受療率（人口10万対）を見ると、0歳から4歳では周産期に発生した病態が28.8%、呼吸器系の疾患が23.1%、先天奇形、変形及び染色体異常が18.3%で、5歳から14歳では腎尿路生殖器系の疾患が18.8%、神経系の疾患が15.6%、筋骨格系及び結合組織の疾患が10.9%となっており、年代に応じて受療する疾患が異なっています。

〔入院受療率の高い疾患〕

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
0～4歳	周産期に発生した病態	呼吸器系の疾患	先天奇形、変形及び染色体異常	新生物	損傷、中毒及びその他の外因の影響
	126	101	80	26	18
	28.8%	23.1%	18.3%	5.9%	4.1%
5～14歳	腎尿路生殖器系の疾患	神経系の疾患	筋骨格系及び結合組織の疾患	新生物	呼吸器系の疾患
	12	10	7	6	6
	18.8%	15.6%	10.9%	9.4%	9.4%

※上段は疾患名、中段は受療率（人口10万対）＝推計患者数/推計人口×100,000、下段は割合（厚生労働省「平成26年患者調査」）

- ・本県の外来受療率（人口10万対）を見ると、0歳から4歳では呼吸器系の疾患が50.6%、健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスが15.2%、皮膚及び皮下組織の疾患が7.9%で、5歳～14歳は呼吸器系の疾患が40.9%、消化器系の疾患が16.9%、健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスが9.5%となっており、呼吸器系の疾患はいずれの年代も主要な疾患となっています。

〔外来受療率の高い疾患〕

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
0～4歳	呼吸器系の疾患	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	皮膚及び皮下組織の疾患	耳及び乳様突起の疾患	感染症及び寄生虫症
	4,041	1,218	631	543	524
	50.6%	15.2%	7.9%	6.8%	6.6%
5～14歳	呼吸器系の疾患	消化器系の疾患	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	損傷、中毒及びその他の外因の影響	皮膚及び皮下組織の疾患
	1,287	531	299	230	229
	40.9%	16.9%	9.5%	7.3%	7.3%

※上段は疾患名、中段は受療率（人口10万対）＝推計患者数/推計人口×100,000、下段は割合（厚生労働省「平成26年患者調査」）

- ・乳児死亡率（出生千対）を見ると、平成28年は1.6（全国：2）であり、過去の状況を見てもおおむね全国的に低い水準にあります。

〔乳児死亡率の推移〕

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
全国	2.6	2.4	2.3	2.3	2.2	2.1	2.1	1.9	2
愛媛	1.4(46)	2.5(14)	1.7(42)	1.1(47)	2.5(11)	2.3(17)	1.5(43)	1.4(40)	1.6(42)

※カッコ内は全国順位（数値が高いほど順位は高い）

（厚生労働省「平成28年人口動態統計」）

- ・本県の乳児死亡率（出生 10 万対）を死因別に見ると、先天奇形、変形及び染色体異常が 31.2%、乳幼児突然死症候群と不慮の事故が 12.5%となっています。（厚生労働省「平成 28 年人口動態統計」）
- ・本県の年齢階級別（0 歳～14 歳）年齢調整死亡率を見ると、男では 5 歳～9 歳及び 10 歳～14 歳で全国値を上回っており、女では 10 歳～14 歳で全国値を上回る結果となっています。

[年齢階級別年齢調整死亡率の状況]

性別	地域	0～4 歳	5～9 歳	10～14 歳
男	全国	58.3	9.4	9.4
	愛媛	44.9	24.2	12.7
女	全国	50.5	7.7	7.5
	愛媛	27.9	7.2	16.8

(厚生労働省「平成 27 年人口動態統計特殊報告」)

- ・全国の年齢別死亡率を死因別に見ると、0 歳と 1 歳～4 歳では先天奇形、変形及び染色体異常が、5 歳～9 歳と 10 歳～14 歳では悪性新生物が第 1 位となっています。

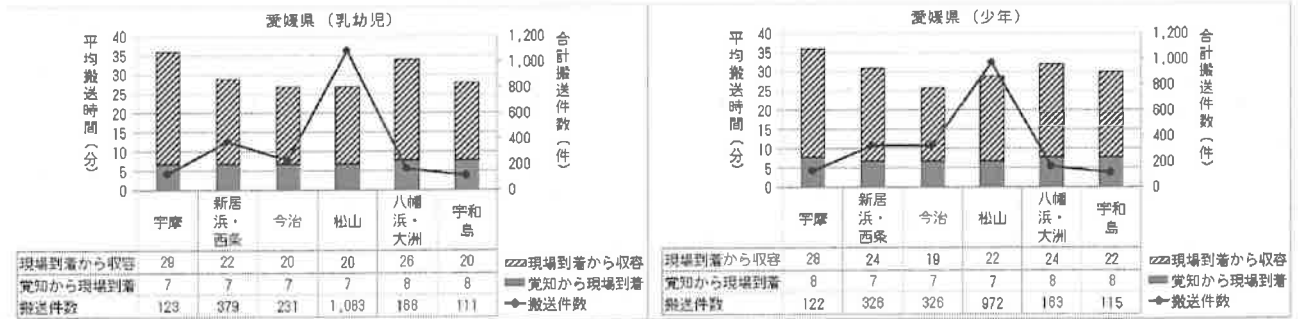
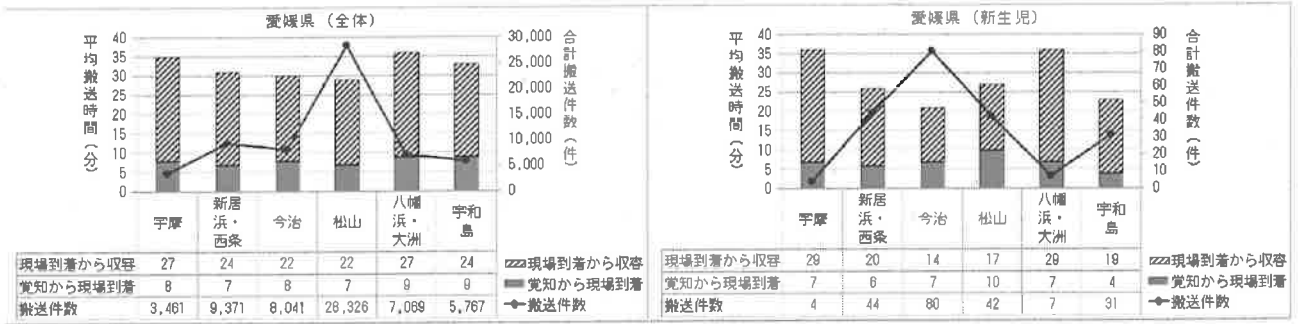
[年齢別死亡原因]

	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
0 歳	先天奇形、変形及び染色体異常	周産期に特異的な呼吸障がい等	乳幼児突然死症候群	不慮の事故	胎児及び新生児の出血性障がい等
	67.9	28.9	11.2	7.5	6.9
	34.4%	14.6%	5.7%	3.8%	3.5%
1～4 歳	先天奇形、変形及び染色体異常	不慮の事故	悪性新生物	心疾患	肺炎
	3.8	2.2	1.5	1	0.9
	21.7%	12.3%	8.6%	5.8%	5.1%
5～9 歳	悪性新生物	不慮の事故	先天奇形、変形及び染色体異常	肺炎	心疾患
	1.6	1.3	0.6	0.4	0.3
	21.5%	17.4%	8.2%	4.9%	4.1%
10～14 歳	悪性新生物	自殺	不慮の事故	先天奇形、変形及び染色体異常	心疾患
	1.7	1.3	1.2	0.5	0.3
	21.6%	16.1%	15.0%	6.1%	4.3%

※上段は死因、中段は死亡率（人口 10 万対）、下段は割合

(厚生労働省「平成 28 年人口動態調査」)

- ・平成 26 年の救急搬送データを見ると、宇摩圏域で新生児、乳幼児及び少年の搬送時間が全体と比較して長くかかっています。



注) 搬送件数が10件未満の場合は個人情報保護の観点から0と表示される。(平成26年データ)

(厚生労働省「救急搬送時間可視化」(医療計画作成支援データブック収載))

- ・DPCデータによる救急搬送入院数(小児疾患・新生児)を見ると、救命救急センターや救急医療機関に集中しています。

【救急搬送入院数(小児疾患)】

病院名	総数	救急車	割合
90247愛媛県立新居浜病院	19.4	3.9	20.2%
31147愛媛県立中央病院	16.5	3.7	22.2%
31146松山赤十字病院	17.2	3.0	17.5%
31148松山市民病院	11.3	2.2	19.3%
31152市立宇和島病院	9.8	2.2	22.0%
31159石川記念会HITO病院	4.4	1.3	30.2%
31145恩賜財団済生会松山病	4.3	1.3	28.8%
31156同心会西条中央病院	12.6	1.3	9.9%
31151宇和島徳洲会病院	3.2	1.1	34.2%
90245愛媛県立今治病院	14.8	1.1	7.3%
31153住友別子病院	3.3	0.8	25.6%
31155積善会十全総合病院	5.3	0.8	15.6%
00135滴水会吉野病院	0.0	0.0	
00511中川病院	1.3	0.0	0.0%
00512松山笠置記念心臓血管	0.0	0.0	
00513聖光会鷹の子病院	0.0	0.0	
00514愛媛生協病院	4.1	0.0	0.0%
00515慈生会松山城東病院	1.2	0.0	0.0%
00516消化器科久保病院	0.0	0.0	
00517陽成会広瀬病院	0.0	0.0	
00518真泉会今治第一病院	1.7	0.0	0.0%
00519聖ルカ会木原病院	1.7	0.0	0.0%
00520順天会放射線第一病院	3.0	0.0	0.0%
00521新居浜協立病院	0.0	0.0	
00522明生会長谷川病院	2.3	0.0	0.0%
00523樹人会北条病院	0.0	0.0	
00524愛媛県立南宇和病院	1.4	0.0	0.0%
00991おおぞら病院	0.0	0.0	
00992聖愛会松山ベテル病院	0.0	0.0	
00993千寿会道後温泉病院	0.0	0.0	
00994NTT西日本松山病院	1.2	0.0	0.0%
00995広仁会広瀬病院	0.0	0.0	
00996喜多医師会喜多医師会	2.0	0.0	0.0%
00997恩賜会大洲記念病院	0.0	0.0	
01144宇和島市立吉田病院	0.0	0.0	
01145健生会循環器科林病院	0.0	0.0	
01264友朋会栗林病院	0.0	0.0	
01265宇和島市立津島病院	0.0	0.0	
01266更生会村上記念病院	2.2	0.0	0.0%
01267西予市立野村病院	0.0	0.0	
01333仁清会野本記念病院	0.0	0.0	
01334慈孝会福角病院	0.0	0.0	
01335国民健康保険久万高原	0.0	0.0	
10068愛媛大学医学部附属病	1.7	0.0	0.0%
31149瀬戸内海病院	4.0	0.0	0.0%
31150恩賜財団済生会今治病	4.3	0.0	0.0%
31154愛媛労災病院	1.5	0.0	0.0%
31157恩賜財団済生会西条病	1.5	0.0	0.0%
31158四国中央病院	3.3	0.0	0.0%
31160NHO四国がんセンター	0.0	0.0	
90062市立大洲病院	1.4	0.0	0.0%
90137専心会西条市立周桑病	0.0	0.0	
90246JCHO宇和島病院	0.0	0.0	
90248北斗会大洲中央病院	2.1	0.0	0.0%

〔救急搬送入院数（新生児）〕

病院名	総数	救急車	割合
90245愛媛県立今治病院	7.2	3.0	41.9%
90247愛媛県立新居浜病院	9.1	2.8	30.3%
31147愛媛県立中央病院	22.0	2.3	10.2%
00135滴水会吉野病院	0.0	0.0	
00511中川病院	0.0	0.0	
00512松山笠置記念心臓血管	0.0	0.0	
00513聖光会鷹の子病院	0.0	0.0	
00514愛媛生協病院	0.0	0.0	
00515慈生会松山城東病院	0.0	0.0	
00516消化器科久保病院	0.0	0.0	
00517陽成会広瀬病院	0.0	0.0	
00518真泉会今治第一病院	0.0	0.0	
00519聖ルカ会木原病院	0.0	0.0	
00520順天会放射線第一病院	0.0	0.0	
00521新居浜協立病院	0.0	0.0	
00522明生会長谷川病院	0.0	0.0	
00523樹人会北条病院	0.0	0.0	
00524愛媛県立南宇和病院	0.0	0.0	
00991おおぞら病院	0.0	0.0	
00992聖愛会松山ベテル病院	0.0	0.0	
00993千寿会道後温泉病院	0.0	0.0	
00994NTT西日本松山病院	0.0	0.0	
00995広仁会広瀬病院	0.0	0.0	
00996喜多医師会喜多医師会	0.0	0.0	
00997怒風会大洲記念病院	0.0	0.0	
01144宇和島市立吉田病院	0.0	0.0	
01145健生会循環器科林病院	0.0	0.0	
01264友朋会栗林病院	0.0	0.0	
01265宇和島市立津島病院	0.0	0.0	
01266更生会村上記念病院	0.0	0.0	
01267西予市立野村病院	0.0	0.0	
01333仁清会野本記念病院	0.0	0.0	
01334慈孝会福角病院	0.0	0.0	
01335国民健康保険久万高原	0.0	0.0	
10068愛媛大学医学部附属病	26.7	0.0	0.0%
31145恩賜財団済生会松山病	0.0	0.0	
31146松山赤十字病院	6.2	0.0	0.0%
31148松山市民病院	0.0	0.0	
31149瀬戸内海病院	0.0	0.0	
31150恩賜財団済生会今治病	0.0	0.0	
31151宇和島徳洲会病院	0.0	0.0	
31152市立宇和島病院	3.8	0.0	0.0%
31153住友別子病院	1.7	0.0	0.0%
31154愛媛労災病院	0.0	0.0	
31155積善会十全総合病院	0.0	0.0	
31156同心会西条中央病院	0.0	0.0	
31157恩賜財団済生会西条病	0.0	0.0	
31158四国中央病院	1.9	0.0	0.0%
31159石川記念会HITO病院	0.0	0.0	
31160NHQ四国がんセンター	0.0	0.0	
90062市立大洲病院	0.0	0.0	
90137専心会西条市立周桑病	0.0	0.0	
90246JCHO宇和島病院	0.0	0.0	
90248北斗会大洲中央病院	0.0	0.0	

（厚生労働省「平成 27 年D P C 調査（国立がん研究センター社会と健康研究センター臨床経済研究室長 石川ベンジャミン光一）」（医療計画作成支援データブック収載）

- ・レセプトデータ（NDB）を活用した提供状況の分析を見ると、夜間・休日における提供状況や入院医療、特に重症児や手術における提供状況に地域差が見られます。
- ・ただし、宇摩圏域及び新居浜・西条圏域においては、広域二次救急医療体制を構築していることを考慮する必要があります。

		宇摩	新居浜・西条	今治	松山	八幡浜・大洲	宇和島
小児外来診療体制（6才未満）	外来	92.9	114.7	115.8	115.0	103.1	112.0
小児科外来診療料（3才未満、再掲）	外来	145.3	110.8	143.4	109.1	119.6	104.3
小児夜間・休日診療体制（6才未満）	入院	<u>44.7</u>	138.5	<u>78.9</u>	<u>79.7</u>	<u>58.9</u>	<u>75.0</u>
	外来	<u>63.2</u>	<u>72.2</u>	149.1	97.2	<u>81.2</u>	122.9
	全体	<u>63.0</u>	<u>73.2</u>	148.1	96.9	<u>80.9</u>	122.2
乳幼児の入院医療体制	入院	125.2	342.7	299.8	118.6	248.3	88.2
小児の入院医療体制	入院	<u>16.6</u>	<u>58.0</u>		115.7		126.8
小児のICU	入院				198.3		
重症児の入院医療体制	入院	<u>52.5</u>	<u>57.8</u>	<u>33.5</u>	115.9	<u>55.3</u>	115.1
乳幼児・小児の救急医療体制	入院	176.6	933.2	1,104.0	48.1	699.8	<u>80.5</u>
乳幼児に対する手術体制	入院	<u>33.9</u>	115.3	<u>59.7</u>	171.4	<u>43.6</u>	<u>87.4</u>
	外来	110.8	195.8	191.0	182.9	141.7	121.4
	全体	98.4	182.8	169.8	181.1	125.9	115.9

小児科療養指導	外来	<u>10.2</u>	144.1	<u>84.9</u>	174.7	<u>20.4</u>	121.0
小児特定疾患カウンセリング	外来	127.0	<u>46.9</u>	90.0	<u>58.8</u>	117.8	378.2
小児悪性腫瘍患者指導管理	外来				283.0		

※SCRは、高齢化の影響を排するため、性・年齢調整を行ったレセプト件数を指標化したもの。

医療機関所在地で集計し、100が全国平均を示す。

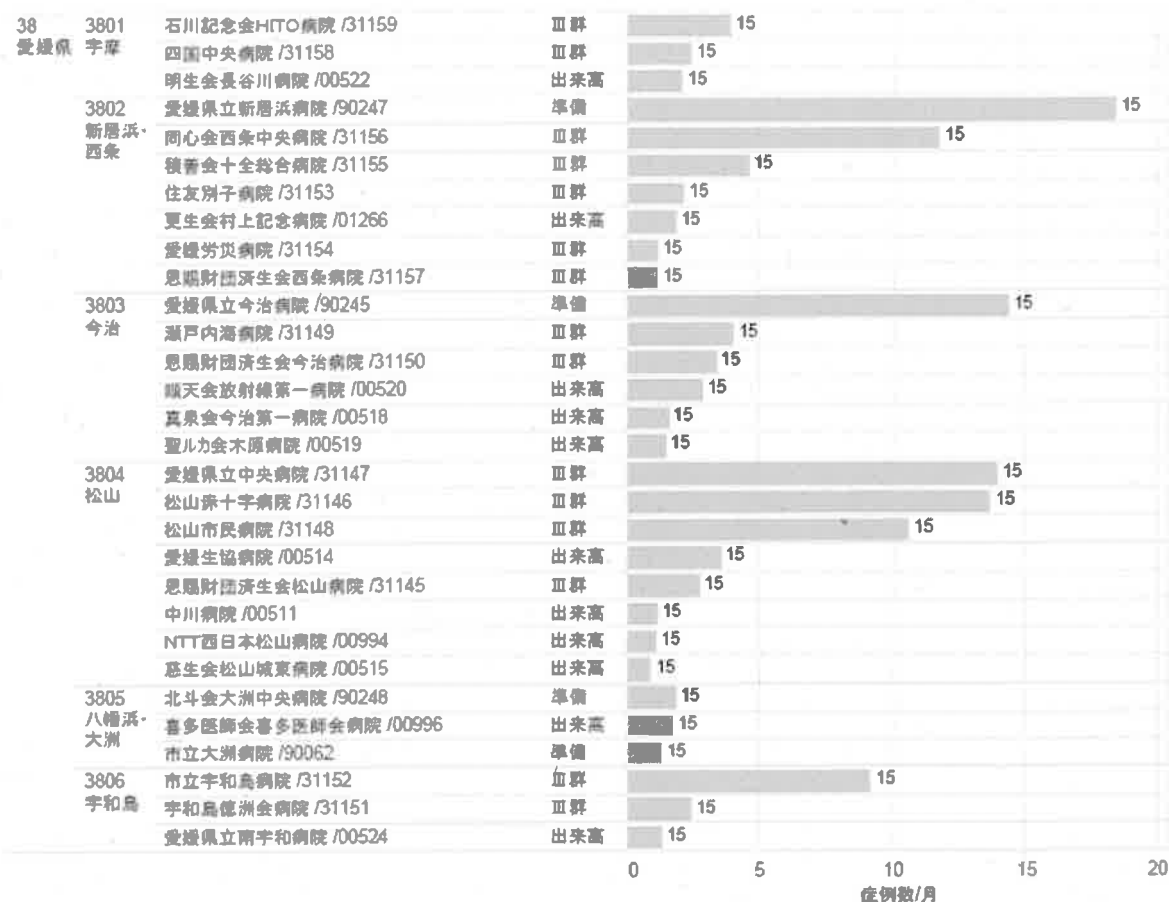
(厚生労働省「医療提供体制（SCR）」（医療計画作成支援データブック収載））

- ・DPCデータを見ると、いずれの圏域も小児患者を受入れています。新生児になると八幡浜・大洲圏域をはじめ受入れている医療機関が限られ、圏域ごとにばらつきが見られます。

[MDC別患者数 (全疾患)]

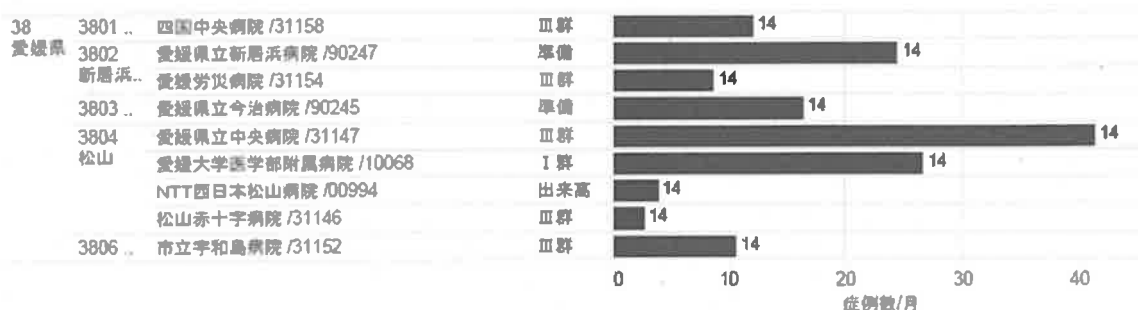


[MDC別患者数（小児疾患）]

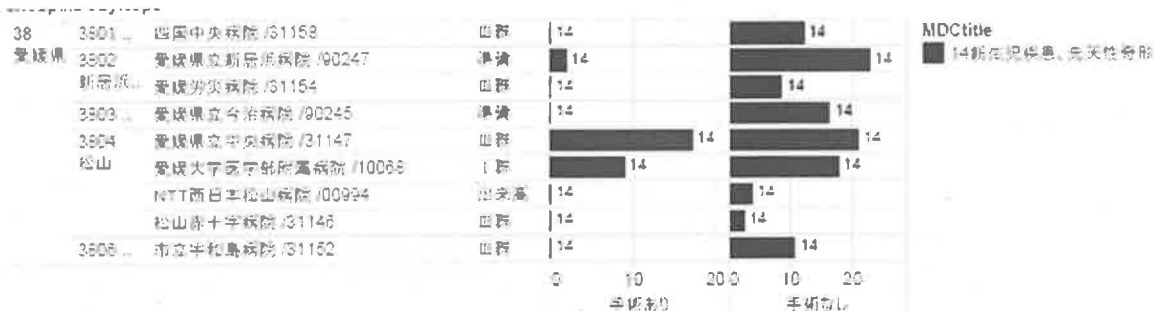


・DPCデータにより手術の有無の状況（新生児）を見ると、手術に係る受入状況では松山圏域及び新居浜・西条圏域に集中しています。

[MDC別患者数（新生児）]



〔MDC別患者数・手術の有無別（新生児）〕



(厚生労働省「平成 27 年DPC調査（国立がん研究センター社会と健康研究センター臨床経済研究室長 石川ベンジャミン光一）」（医療計画作成支援データブック収載）

- ・レセプトデータ（NDB）を活用した受療動向（患者の流出入）の状況を見ると、外来では約 80%の患者が自圏域で対応できていますが、一部の患者は県外を含めて他圏域に流出しています。
- ・小児夜間・休日では、広域二次救急医療体制を構築している東予東部（宇摩圏域及び新居浜・西条圏域）において、宇摩圏域から新居浜・西条圏域への流出が見られます。
- ・入院医療になると流出入が見られ、特に重症児の入院医療になると松山圏域へ集中が見られます。

〔小児外来診療体制（6才未満）〕

患者住所地	医療機関所在地										
	宇摩	新居浜・西条	今治	松山	八幡浜・大洲	宇和島	広島県	徳島県	香川県	高知県	その他県外
宇摩	86.56%	6.70%		0.68%					6.07%		
新居浜・西条	0.38%	94.82%	1.00%	3.35%		0.35%			0.10%		
今治		0.92%	94.25%	3.87%			0.90%	0.07%			
松山		0.19%	0.21%	99.01%	0.27%	0.20%	0.04%			0.03%	0.05%
八幡浜・大洲		0.16%	0.15%	5.29%	90.06%	4.00%	0.20%				0.13%
宇和島				1.13%	5.20%	93.30%				0.24%	0.14%

〔小児科外来診療料（3才未満、再掲）〕

患者住所地	医療機関所在地						
	宇摩	新居浜・西条	今治	松山	八幡浜・大洲	宇和島	広島県
宇摩	95.10%	4.90%					
新居浜・西条	1.07%	96.41%	1.07%	1.44%			
今治		0.43%	98.55%	0.69%			0.33%
松山		0.24%	0.27%	98.92%	0.41%	0.15%	
八幡浜・大洲				2.12%	96.68%	0.80%	0.40%
宇和島				0.82%		99.18%	

〔小児夜間・休日診療体制（6才未満）（外来）〕

		医療機関所在地						
患者住所地	宇摩	新居 浜・西 条	今治	松山	八幡 浜・大 洲	宇和島	広島県	香川県
宇摩	77.64%	8.95%						13.42%
新居浜・西条		96.45%	2.05%	1.49%				
今治			98.24%	0.69%			1.08%	
松山			0.35%	98.98%	0.39%	0.28%		
八幡浜・大洲				6.89%	85.33%	7.78%		
宇和島					1.88%	98.12%		

〔乳幼児の入院医療体制〕

		医療機関所在地				
患者住所地	宇摩	新居 浜・西 条	今治	松山	八幡 浜・大洲	宇和島
宇摩	75.61%	24.39%				
新居浜・西条		90.81%		9.19%		
今治			90.46%	9.54%		
松山				100.00%		
八幡浜・大洲					100.00%	
宇和島						100.00%

〔小児の入院医療体制〕

		医療機関所在地					
患者住所地	宇摩	新居 浜・西 条	今治	松山	八幡 浜・大 洲	宇和島	香川県
宇摩							100.00%
新居浜・西条		70.42%		29.58%			
今治				100.00%			
松山				100.00%			
八幡浜・大洲				62.79%		37.21%	
宇和島				20.30%		79.70%	

〔重症児の入院医療体制〕

		医療機関所在地									
患者住所地	宇摩	新居 浜・西 条	今治	松山	八幡 浜・大 洲	宇和島	広島県	徳島県	香川県	高知県	その他 県外
宇摩	47.54%	13.03%		9.15%				18.31%	7.75%	4.23%	
新居浜・西条	2.94%	76.31%		18.24%				2.52%			
今治			52.88%	33.42%		3.29%	3.84%	3.29%			3.29%
松山				97.92%				2.08%			
八幡浜・大洲				18.82%	68.92%	12.26%					
宇和島				3.30%		85.85%		8.25%			2.59%

〔乳幼児・小児の救急医療体制〕

		医療機関所在地				
患者住所地	宇摩	新居 浜・西条	今治	松山	八幡 浜・大洲	宇和島
宇摩						
新居浜・西条		100.00%				
今治			100.00%			
松山				100.00%		
八幡浜・大洲					100.00%	
宇和島						

〔乳幼児に対する手術体制（入院）〕

		医療機関所在地				
患者住所地	宇摩	新居 浜・西 条	今治	松山	八幡 浜・大 洲	宇和島
宇摩						
新居浜・西条		71.74%		28.26%		
今治			42.31%	57.69%		
松山				100.00%		
八幡浜・大洲				100.00%		
宇和島						

〔乳幼児に対する手術体制（外来）〕

		医療機関所在地				
患者住所地	宇摩	新居 浜・西条	今治	松山	八幡 浜・大洲	宇和島
宇摩	100.00%					
新居浜・西条		100.00%				
今治			100.00%			
松山				100.00%		
八幡浜・大洲					100.00%	
宇和島						100.00%

〔小児科療養指導〕

		医療機関所在地					
患者住所地	宇摩	新居 浜・西 条	今治	松山	八幡 浜・大 洲	宇和島	香川県
宇摩		55.00%					45.00%
新居浜・西条		72.66%		27.34%			
今治			54.35%	45.65%			
松山				100.00%			
八幡浜・大洲				70.97%	29.03%		
宇和島				16.39%		83.61%	

〔小児特定疾患カウンセリング〕

患者住所地	医療機関所在地					
	宇摩	新居浜・西条	今治	松山	八幡浜・大洲	宇和島
宇摩	100.00%					
新居浜・西条		100.00%				
今治			91.98%	8.02%		
松山				100.00%		
八幡浜・大洲					90.76%	9.24%
宇和島						100.00%

〔小児悪性腫瘍患者指導管理〕

患者住所地	医療機関所在地					
	宇摩	新居浜・西条	今治	松山	八幡浜・大洲	宇和島
宇摩						
新居浜・西条						
今治						
松山				100.00%		
八幡浜・大洲				100.00%		
宇和島				100.00%		

※受療動向で対象となるレセプトは、国保、退職国保及び後期高齢者のみ。

(カバー率：全体で約55%、65歳以上で約90%、75歳以上で100%)

(厚生労働省「受療動向可視化ツール」(医療計画作成支援データブック収載))

▼小児医療提供体制等

- ・本県の小児科医師数(主たる診療科を小児科とする医師数)は、平成16年から比較すると県全体としては増加傾向にありますが、半数以上が松山圏域に集中しており、地域偏在が顕著となっています。
- ・宇摩圏域と八幡浜・大洲圏域は特に少なくなっています。

〔主たる診療科を小児科とする医師数〕

圏域	H16	H18	H20	H22	H24	H26
宇摩	10 (73.7)	11 (83.7)	7 (55.5)	8 (65.9)	7 (58.8)	6 (51.8)
新居浜・西条	27 (79.1)	20 (59.6)	24 (72.6)	27 (82.8)	26 (80.5)	25 (79.3)
今治	20 (82.6)	20 (85.4)	22 (96.8)	20 (90.9)	18 (84.5)	19 (92.1)
松山	91 (96.9)	88 (96.0)	102 (113.2)	98 (110.5)	106 (121.0)	106 (122.4)
八幡浜・大洲	11 (48.9)	12 (56.0)	12 (59.3)	12 (63.4)	12 (67.0)	11 (64.7)
宇和島	15 (82.3)	16 (93.5)	14 (86.8)	14 (92.9)	17 (120.5)	17 (128.0)
県計	174 (84.3)	167 (83.4)	181 (92.9)	179 (94.5)	186 (100.5)	184 (101.9)

※カッコ内は小児人口(0歳~14歳)10万人あたり(小児人口は住民基本台帳年齢階級別人口による)

(厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」)

- ・小児科標榜医療施設数を見ると、平成 28 年の病院は 36 施設、平成 26 年の診療所は 166 施設で、施設の実数は病院及び診療所ともに減少傾向にあります。
- ・ただし、人口 10 万人あたりの施設数の推移を見ると、病院は平成 27 年の 21.4 施設から平成 28 年の 20.6 施設に減少していますが、診療所は平成 23 年の 88.6 施設から平成 26 年の 91.9 施設に増加しています。
- ・人口 10 万人あたりの施設数を全国と比較すると、病院数は全国を上回っていますが、診療所数では全国を下回っています。

〔小児科を標榜する一般病院数〕

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
全国	3,015	2,905	2,853	2,808	2,745	2,702	2,680	2,656	2,642	2,618
愛媛	42	40	39	38	38	39	39	38	38	36

(厚生労働省「医療施設調査」)

〔小児科を標榜する診療所数〕

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
全国	25,318	—	—	22,503	—	—	19,994	—	—	20,872
愛媛	221	—	—	194	—	—	166	—	—	166

※診療所は 3 年に一度の調査

(厚生労働省「医療施設調査」)

〔二次医療圏ごとの小児科標榜施設数〕

	県計	宇摩	新居浜・西条	今治	松山	八幡浜・大洲	宇和島
一般病院 (H28)	36	2	7	6	12	3	6
一般診療所 (H26)	166	9	31	17	51	33	25

(厚生労働省「医療施設調査」)

〔人口 10 万人対の小児科標榜医療施設数〕

	病院		診療所	
	H27	H28	H23	H26
全国	16.0	16.0	118.0	125.2
愛媛	21.4	20.6	88.6	91.9

※人口は各年の住民基本台帳人口の 0 歳から 14 歳の人口を用いて算出

(厚生労働省「医療施設調査」)

〔NICUを有する病院〕

(H26)	県計	宇摩	新居浜・西条	今治	松山	八幡浜・大洲	宇和島
病院数	5	—	1	1	3	—	—
病床数	42	—	6	3	33	—	—

(厚生労働省「医療施設調査」)

- ・小児の初期救急医療体制は、休日夜間急患センターや在宅当番医制で対応していますが、地域によっては、小児科医ではなく内科医等が対応している状況もあります。
- ・二次救急医療体制は、主に病院群輪番制や救急告示施設により対応しています。このうち、東予東部（宇摩圏域及び新居浜・西条圏域）は広域小児二次救急医療体制を構築し、松山圏域及び宇和島圏域は小児の二次救急医療体制を構築しています。その他の地域は、小児科医が対応していない場合、内科医等により対応しています。
- ・三次救急については、東予、中予、南予の救命救急センターと愛媛大学医学部附属病院が対応しています。

〔小児の救急体制〕

二次医療圏	初期救急医療体制	二次救急医療体制
宇摩	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四国中央市急患医療センター ・ 在宅当番医制（宇摩医師会） 	県立新居浜病院、四国中央病院及び西条中央病院の3病院による広域輪番制を実施
新居浜・西条	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新居浜市医師会内科小児科急患センター ・ 西条市休日夜間急患センター ・ 在宅当番医制（西条市医師会） 	
今治	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今治市医師会休日夜間急患センター（当番日の救急病院に併設） ・ 日曜祝日在宅当番医制（今治市医師会小児科部会） 	二次救急輪番病院の9病院が対応し、後方支援を県立今治病院及び済生会今治病院が担当
松山	<ul style="list-style-type: none"> ・ 松山市急患医療センター ・ 松山市医師会休日診療所 	松山赤十字病院、県立中央病院及び松山市民病院が小児救急輪番を構成し対応。

八幡浜・大洲	<ul style="list-style-type: none"> ・八幡浜地区施設事務組合休日・夜間急患センター ・在宅当番医制（喜多医師会・八幡浜医師会・西予市医師会） 	<ul style="list-style-type: none"> ・八幡浜地区の輪番は土曜日及び火曜日の夜間帯を除き、市立八幡浜総合病院が対応（当直又はオンコールで対応）（必要に応じて市立宇和島病院等に転送） ・大洲喜多地区の輪番は木曜日の夜間帯を除き、大洲中央病院、加戸病院、市立大洲病院、大洲記念病院の4病院で対応（当直の内科医等が対応）（必要に応じて市立八幡浜総合病院、市立宇和島病院等に転送） ・西予地区の輪番は野村病院と西予市民病院が交代で対応（当直の内科医等が対応）
宇和島	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅当番医制（宇和島医師会、南宇和郡医師会） 	<ul style="list-style-type: none"> ・市立宇和島病院が対応 ・南宇和地区は、県立南宇和病院が当直又はオンコールで対応

（愛媛県調べ）

- ・その他の機能を有する医療機関は「別表 機能別医療機関例」を参照してください。

▼患者推計

- ・患者調査に基づく圏域別患者推計を見ると、いずれの圏域も入院と外来ともに15歳未満の患者数は減少することが予想され、医療機能の分化・連携による医療資源の最適化を検討する必要があります。

〔宇摩圏域〕

都道府県 99愛媛県

2次医療圏 3801宇摩

市区町村 すべて

入院と外来の患者数推計

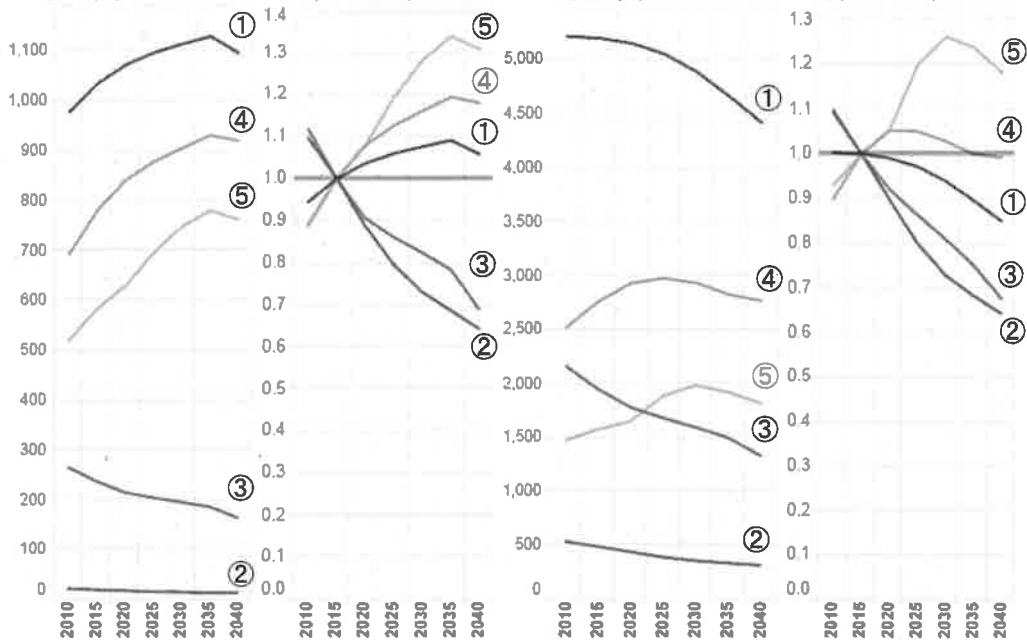
備考 xALL総数

1日入院患者数(人)

変化率(2015年基準)

1日外来患者数(人)

変化率(2015年基準)



H26調査調査-受療率(全国)/社人研人口推計に基づく簡易版患者推計 - kishkawa@ncc.go.jp 総数/15歳未満/15-64歳/65歳以上/75歳以上(再掲)

〔新居浜・西条圏域〕

都道府県 38愛媛県

2次医療圏 3802新居浜・西条

市区町村 すべて

入院と外来の患者数推計

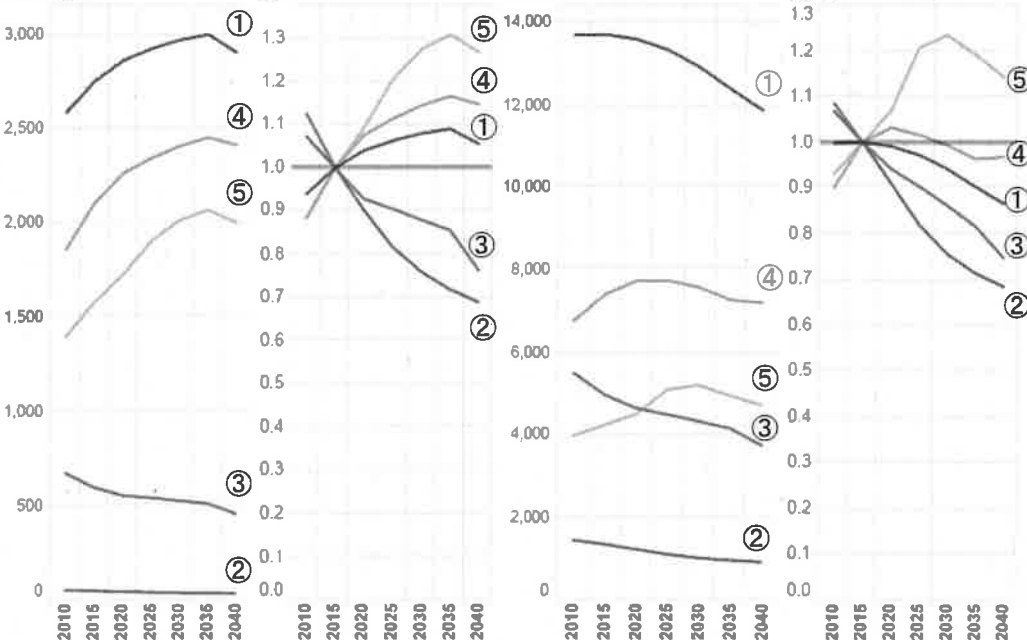
備考 xALL総数

1日入院患者数(人)

変化率(2015年基準)

1日外来患者数(人)

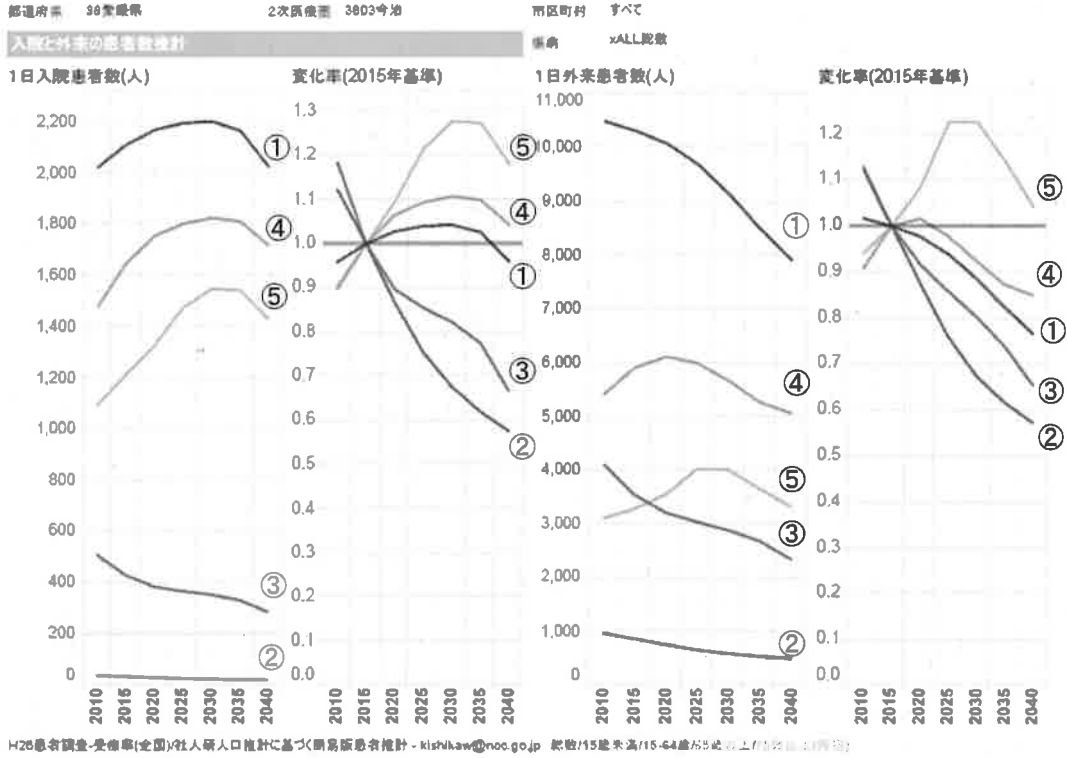
変化率(2015年基準)



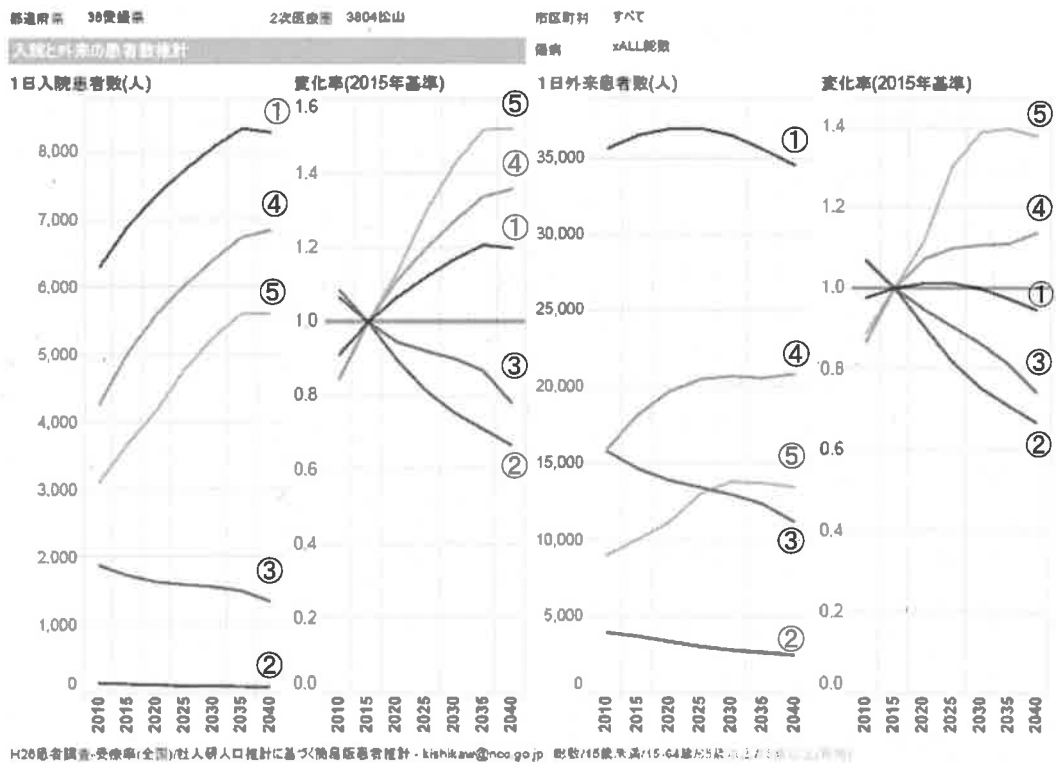
H26調査調査-受療率(全国)/社人研人口推計に基づく簡易版患者推計 - kishkawa@ncc.go.jp 総数/15歳未満/15-64歳/65歳以上/75歳以上(再掲)

【凡例】①：総数、②：15歳未満、③15～64歳、④65歳以上、⑤75歳以上（再掲）

〔今治圏域〕

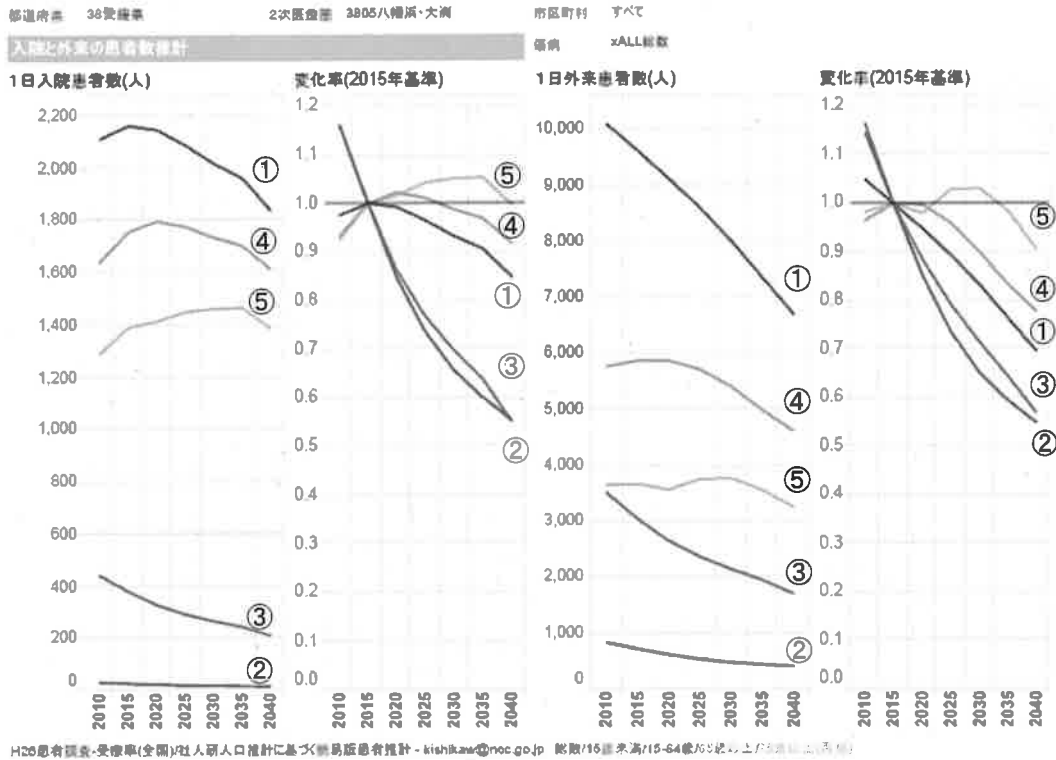


〔松山圏域〕

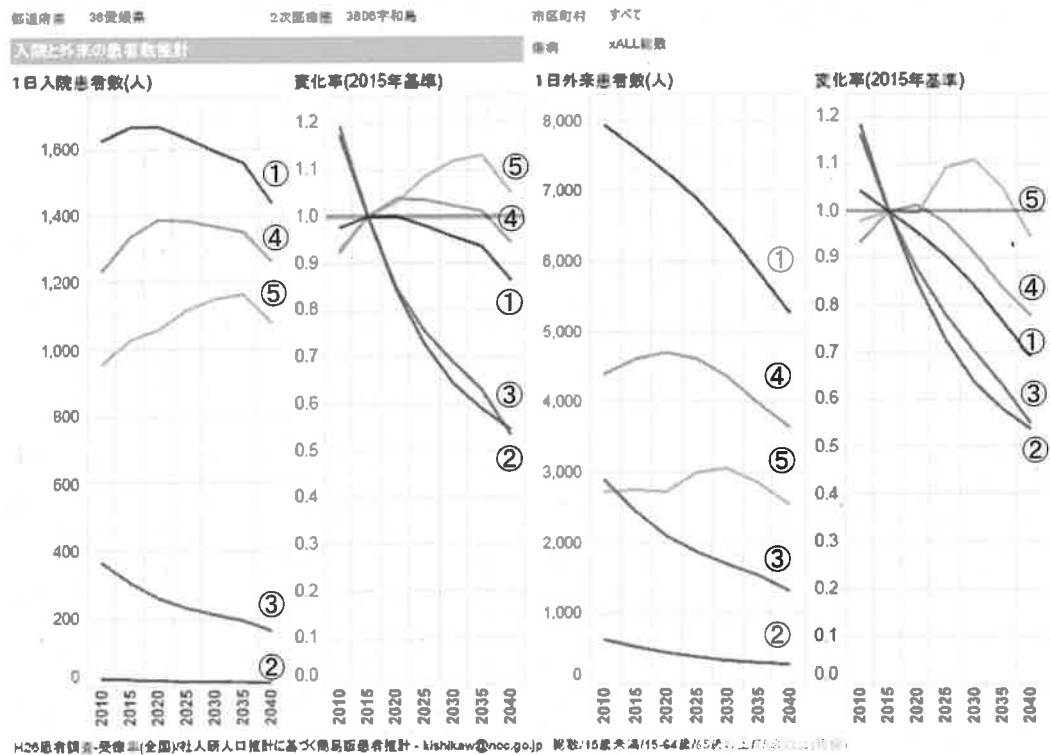


【凡例】①：総数、②：15歳未満、③15～64歳、④65歳以上、⑤75歳以上（再掲）

〔八幡浜・大洲圏域〕



〔宇和島圏域〕



【凡例】①：総数、②：15歳未満、③15～64歳、④65歳以上、⑤75歳以上（再掲）

〔平成26年患者調査・受療率（全国）及び国立社会保障・人口問題研究所人口推計に基づく患者推計（国立がん研究センター社会と健康研究センター臨床経済研究室長 石川ベンジャミン光一（医療計画作成支援データブック収載））〕

③圏域の設定

圏域	対象市町
宇摩・新居浜・西条	四国中央市、新居浜市、西条市
今治	今治市、上島町
松山・八幡浜・大洲	松山市、伊予市、東温市、久万高原町、松前町、砥部町、八幡浜市、大洲市、西予市、内子町、伊方町
宇和島	宇和島市、松野町、鬼北町、愛南町

- ・小児医療では、宇摩圏域から新居浜・西条圏域への患者流出と八幡浜・大洲圏域から松山圏域（一部宇和島圏域）への患者流出が顕著であることから、小児科学会が登録する中核病院小児科^{注1}（愛媛大学医学部附属病院）、地域小児科センター^{注1}（県立新居浜病院、県立今治病院、県立中央病院、松山赤十字病院）、地域振興小児科A^{注1}（市立八幡浜総合病院）及び地域振興小児科B^{注1}（四国中央病院）の立地状況を考慮し、宇摩圏域と新居浜・西条圏域を、松山圏域と八幡浜・大洲圏域を統合し、4つの圏域を設定します。（（注1）P.265 参照）
- ・ただし、患者の発生状況や状態、医療機関の受入状況等に応じて、圏域外への搬送にも柔軟に対応するほか、今後の医療提供体制の変化等にあわせて適宜見直しを図ることとします。

④各病期における目的、求められる機能、現状、課題及び対策

▼相談支援等

〔目的〕

- ・症状に応じて安心して子育てができる小児医療体制が整っています。

〔現状〕

- ・小児の外来推計患者数が約 15 年間でやや増加傾向にある中で、小児の疾患は年代別に見て多岐にわたっています。
- ・小児科医の地域偏在が顕著となっており、救急対応が難しい地域もあります。
- ・核家族化や共働き世帯が多く、子育てを取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。

〔課題・求められる機能〕

- ・子どもの健康や予防、急病時の対応等について、普段からかかりつけ医に相談し、日頃から健康状態等を把握するとともに、地域の保健・医療・福祉・教育等の連携のもと、症状に応じた適切な受診行動をとることができる体制の整備が必要です。
- ・慢性疾患や心の問題等を抱える子ども及びその家族が、地域の医療資源や福祉サービス等の必要な情報を入手でき、保健・医療・福祉・教育等が連携した総合的な支援を受けることができるなど、子育てに関する支援体制の整備が必要です。

〔対策〕

- ・日頃からかかりつけている病院や診療所においては、子どもの健康や病気、予防、緊急時等に関する保護者等からの相談に応じるとともに、関係機関等においては、かかりつけ医の必要性や適切な救急受診等に関する普及啓発や情報提供を行います。
- ・地域で子どもの状況に応じた切れ目のない適切なサービスを提供するため、医療機関と児童相談所等の福祉サービスとの連携、学校三師（学校医・学校歯科医・学校薬剤師）を中心とした教育現場とかかりつけ医の連携等、保健・医療・福祉・教育等の連携を推進します。
- ・子どもの急病や怪我に際して、応急対処の方法や受診の判断に関するアドバイス等、保護者等からの相談に応える小児救急医療電話相談（#8000）を実施し、保護者の不安軽減を図ります。
- ・心の問題を抱える子どもやその家族等をサポートするため、心と体の健康センター等において、相談や精神保健福祉に関する知識の普及、情報提供を行います。
- ・慢性疾患の診療が必要な子どもやその家族等に対して、必要な医療を地域で受けることができるよう、地域の保健・医療・福祉・教育等の連携のもと、地域の医療資源や各種サービス等の情報提供に努めます。
- ・肢体不自由児や重症心身障害児、自閉症児をはじめとする発達障がい等、様々な障がいに対応するため、子ども療育センターにおいて保健・医療・福祉・教育等が連携した総合的なサービスを提供します。

▼一般小児医療（初期小児救急・小児地域支援病院）

〔目的〕

- ・症状に応じて安心して子育てができる小児医療体制が整っています。

〔現状〕

- ・小児科医師数を見ると全体的には増加傾向にあるものの、地域偏在が顕著となっており、外来診療においても二次医療圏外への患者流出も見られます。
- ・小児科を標榜する病院や診療所が減少傾向にあり、身近な医療機関の維持が難しい状況となっています。
- ・初期救急医療を担う休日夜間急患センターや在宅当番医制において、小児科医ではなく内科医等が対応している地域もあります。

〔課題・求められる機能〕

- ・一般的な病気や軽度の救急対応等、身近な地域で日常的な小児医療を受けることができる体制の整備が必要です。

〔対策〕

- ・大学等の関係機関と連携し、地域の小児医療に必要な小児科医の確保・養成に努めるとともに、小児科を標榜する病院や診療所等地域に必要な医療機能の維持・確保を図り、身近な小児医療提供体制の整備を推進します。

- ・子どもの様々な症状に対応するため、地域の病院・診療所と訪問看護事業所、福祉に関わる事業所、さらには緊急手術や入院等を行う専門的な医療機関等との連携を促進します。
- ・休日夜間急患センターや在宅当番医制について、地域の医療従事者や行政等の関係機関が連携し、小児への対応を拡充するなど、初期小児救急医療体制の充実を図ります。
- ・適切な受診を促すため、かかりつけ医の必要性や適切な救急受診等に関する普及啓発や情報提供を行います。

▼小児専門医療（入院小児救急）

〔目的〕

- ・症状に応じて安心して子育てができる小児医療体制が整っています。

〔現状〕

- ・小児の入院医療や夜間・休日診療では二次医療圏外への流出が見られ、特に重症児の入院医療になると松山圏域へ集中が見られます。
- ・小児科医の偏在のほか、小児の入院や手術に対応する医療機関についても地域差が生じています。
- ・小児の救急搬送では、受入れることができる医療機関に偏りが生じているとともに、新生児や乳幼児の搬送で比較的時間を要する地域もあります。

〔課題・求められる機能〕

- ・医療機関相互、搬送機関と医療機関等の連携のもと、小児の症状に応じて専門的医療を受けることができる体制の整備が必要です。

〔対策〕

- ・大学等の関係機関と連携し、小児専門医療に必要な小児科医の確保・養成に努めるとともに、小児の入院や手術等を提供できる医療機関等必要な医療機能の確保を図り、小児専門医療の提供体制の整備を推進します。
- ・小児救急輪番体制の構築や夜間・休日に小児科診療する医療機関の確保等、地域で常時小児の救急対応が可能な医療体制の整備に取り組みます。
- ・医療、消防、行政等の関係者による協議を行い、関係機関が果たすべき役割の明確化や情報共有等を通じて、円滑な救急搬送体制の整備と医療機関・消防等との連携体制の構築を図ります。
- ・入院医療を担う医療機関から円滑な退院を支援するため、地域医療連携体制に関する窓口の設置や訪問診療を行う医療機関との連携を促進するなど、地域の医療機関の連携体制の構築に努めます。
- ・地域の実情に応じた小児医療提供体制の最適化を図るため、各医療機関が担う役割の明確化やその役割に基づいた医療資源の集約化・重点化、医療機関相互の連携体制の強化等、医療機能の分化・連携を推進します。

▼高度小児専門医療（小児救命救急医療）

〔目的〕

- ・症状に応じて安心して子育てができる小児医療体制が整っています。

〔現状〕

- ・限られた医療資源の中で、救命救急センターや新生児集中治療室（NICU）、母体胎児集中治療室（MFICU）等、より高度な専門入院医療を実施する医療機関は、それぞれの地域で重点化が図られています。

〔課題・求められる機能〕

- ・医療機関相互、搬送機関と医療機関等の連携のもと、小児の症状に応じて高度な専門医療を受けることができる体制の整備が必要です。

〔対策〕

- ・大学等の関係機関と連携し、高度な専門医療に必要な小児科医の確保・養成に努めるとともに、重篤な小児患者に対して救命救急等を実施できる医療機関等必要な医療機能の確保を図り、高度小児専門医療の提供体制の整備を推進します。
- ・高度専門医療を担う医療機関から地域の入院医療機関への円滑な転院等を支援するため、地域医療連携体制に関する窓口の設置等、地域の医療機関の連携体制の構築に努めます。
- ・医療、消防、行政等の関係者による協議を行い、関係機関が果たすべき役割の明確化や情報共有等を通じて、円滑な救急搬送体制の整備や災害時における障がい児・NICUの新生児等への対応に係る医療機関・消防等との連携体制の構築を図ります。
- ・山間部や島しょ部における小児の救急患者に対しても適切に救急医療を提供するため、関係機関と連携し、ドクターヘリによる広域的救急搬送体制の構築に努めます。
- ・地域の実情に応じた小児医療提供体制の最適化を図るため、各医療機関が担う役割の明確化やその役割に基づいた医療資源の集約化・重点化、医療機関相互の連携体制の強化等、医療機能の分化・連携を推進します。

⑤数値目標

	集計単位	現状		目標		出典
		現状値	時点	目標値	時点	
#8000 満足度（「納得した」及び「ほぼ納得した」件数の割合）	県	100.0	H28 年度	100	2023 年度	愛媛県調べ
#8000 で翌日受診（かかりつけ医）及び経過観察を勧めた相談件数	県	(参考) 8,993	H28 年度	—	—	愛媛県調べ
#8000 で翌日受診（かかりつけ医）及び経過観察を勧めた相談件数の割合	県	(参考) 76.2	H28 年度	—	—	愛媛県調べ
小児人口あたり時間外外来受診回数（0歳から15歳未満）<算定回数>	県	28,106	H27 年度	現状以下	2023 年度	NDB
	宇摩・新居浜・西条	3,896				
	今治	5,882				
	松山・八幡浜・大洲	14,128				
	宇和島	4,200				

小児人口あたり時間外外来受診回数（0歳から15歳未満） ＜レセプト枚数＞	県	25,001	H27年度	現状以下	2023年度	NDB
	宇摩・新居浜・西条	3,540				
	今治	4,972				
	松山・八幡浜・大洲	12,787				
	宇和島	3,702				
小児人口あたり時間外外来受診回数（6歳未満） ＜算定回数＞	県	24,655	H27年度	現状以下	2023年度	NDB
	宇摩・新居浜・西条	3,364				
	今治	5,354				
	松山・八幡浜・大洲	12,684				
	宇和島	3,253				
小児人口あたり時間外外来受診回数（6歳未満） ＜レセプト枚数＞	県	21,756	H27年度	現状以下	2023年度	NDB
	宇摩・新居浜・西条	3,027				
	今治	4,468				
	松山・八幡浜・大洲	11,410				
	宇和島	2,851				
乳児死亡率（1歳未満）	県	1.6	H28年	現状以下	2023年	人口動態調査
幼児死亡率（5歳未満）	県	0.5	H28年	現状以下	2023年	人口動態調査
小児死亡率（15歳未満）	県	0.2	H28年	現状以下	2023年	人口動態調査

- ・#8000 満足度（翌日受診（かかりつけ医）及び経過観察を勧めた相談件数・割合）：相談内容に応じて翌日受診や経過観察を勧め、適正受診の促進を目指す。件数等の増加が安易な受診抑制につながらないように満足度の維持を目標に設定する。
- ・小児人口あたり時間外外来受診回数：約15年間の中で外来推計患者数がやや増加傾向にある中で、時間外外来患者に占める軽症患者の割合が多いことから、適正受診の促進等による効果を考慮し、現状以下とする。
- ・乳児・幼児・小児死亡率：全国と比較して低いことから、今後の各種取組みの効果を考慮し、現状以下とする。

〔別表 機能別医療機関例（えひめ医療情報ネットから検索）〕

機能	所在地	医療機関名
小児外科手術	四国中央市	四国中央病院
	新居浜市	県立新居浜病院、十全総合病院
	西条市	西条中央病院、済生会西条病院
	今治市	済生会今治病院、広瀬クリニック、広瀬病院
	松山市	河田外科脳神経外科医院、県立中央病院、土居外科胃腸科医院、松山笠置記念心臓血管病院、松山市民病院、松山赤十字病院、渡部病院
	東温市	愛媛大学医学部附属病院
	八幡浜市	市立八幡浜総合病院
	宇和島市	市立宇和島病院
小児入院治療	四国中央市	四国中央病院
	新居浜市	県立新居浜病院
	西条市	西条中央病院
	今治市	今治セントラル病院、県立今治病院、済生会今治病院
	松山市	石丸小児科、NTT西日本松山病院、愛媛生協病院、県立中央病院、松山市民病院、松山赤十字病院、渡部病院
	宇和島市	市立宇和島病院
	鬼北町	旭川荘南愛媛病院
救命救急センター	新居浜市	県立新居浜病院
	松山市	県立中央病院
	宇和島市	市立宇和島病院
小児集中治療室（PICU）		該当なし
新生児集中治療室（NICU）	新居浜市	県立新居浜病院
	今治市	県立今治病院
	松山市	県立中央病院、松山赤十字病院
	東温市	愛媛大学医学部附属病院
	宇和島市	市立宇和島病院（※医療施設調査（厚生労働省）には計上されていない。）
母体胎児集中治療室（MFICU）	松山市	県立中央病院
夜間・休日の小児科診療を実施している医療機関	四国中央市	医療法人柏寿会福田医院
	新居浜市	井石内科医院、愛媛労災病院、県立新居浜病院、十全総合病院、住友別子病院
	西条市	西条中央病院、まつうら小児科、村上記念病院
	今治市	大三島中央病院、県立今治病院、鈴木病院、瀬戸内海病院
	上島町	泰医院
	松山市	愛媛生協病院、北新医院、つばきウイメンズクリニック、東明病院、松山赤十字病院、渡辺病院
	伊予市	伊予病院、中山クリニック
	東温市	愛媛大学医学部附属病院、愛媛医療センター
	久万高原町	国民健康保険久万高原町立病院、みかわクリニック

	砥部町	豊島医院、西村医院
	八幡浜市	穴井診療所、守口小児科医院
	大洲市	久保内科循環器科、市立大洲病院
	西予市	笹田循環器科内科医院、西予市国民健康保険周木診療所、西予市立野村病院、西予市国民健康保険二及診療所
	内子町	おおむら小児科、小川医院
	伊方町	伊方町国民健康保険串診療所、伊方町国民健康保険瀬戸診療所、山下医院
	宇和島市	あべ医院、上田小児科・外科、桑折小児科、市立宇和島病院、宇和島市立津島病院
	松野町	松野町国民健康保険中央診療所
	鬼北町	旭川荘南愛媛病院、鬼北町立北宇和病院、城戸医院、鬼北町国民健康保険日吉診療所、鬼北町国民健康保険三島診療所
	愛南町	県立南宇和病院
地域医療連携体制に関する窓口を有する小児科標榜施設	四国中央市	四国中央病院
	新居浜市	愛媛労災病院、県立新居浜病院、十全総合病院、住友別子病院
	西条市	西条中央病院、西条市立周桑病院、村上記念病院
	今治市	有津むらかみクリニック、大三島中央病院、県立今治病院、済生会今治病院、鈴木病院、瀬戸内海病院
	松山市	天山病院、NTT西日本松山病院、愛媛生協病院、県立中央病院、東明病院、松山市民病院、松山赤十字病院
	伊予市	伊予病院
	東温市	愛媛大学医学部附属病院、子ども療育センター、愛媛医療センター
	久万高原町	国民健康保険久万高原町立病院
	八幡浜市	市立八幡浜総合病院
	大洲市	市立大洲病院
	西予市	西予市立野村病院
	宇和島市	市立宇和島病院、宇和島市立津島病院
	鬼北町	旭川荘南愛媛病院
	愛南町	県立南宇和病院
在宅訪問診療を行う小児科標榜医療機関	四国中央市	福田医院、四国中央市国民健康保険新宮診療所、山ロクリニック
	新居浜市	井石内科医院、岩崎病院、かとうクリニック、十全総合病院、住友別子病院
	西条市	河野内科、こまつ医院、西条市立周桑病院、田中内科、福田医院、村上記念病院
	今治市	相原内科クリニック、有津むらかみクリニック、大三島中央病院、喜多島診療所、鈴木病院、瀬戸内海病院、美須賀病院、秦医院
	松山市	天山病院、愛媛生協病院、北吉田診療所、田辺医院、檜垣小児科内科医院
	伊予市	伊予病院、佐礼谷診療所、橘医院、中山クリニック、古川医院
	東温市	愛媛医療センター、西野内科クリニック
	久万高原町	国民健康保険久万高原町立病院、みかわクリニック
	八幡浜市	穴井診療所、谷池内科・胃腸科
	大洲市	浦岡医院、大洲市国民健康保険川辺診療所、久保内科循環器科
	西予市	あじき医院、笹田循環器科内科医院、西予市国民健康保険周木診療所、西予市立野村病院、田之浜あじき医院、西予市国民健康保険二及診療所
	内子町	小川医院
	伊方町	伊方町国民健康保険串診療所、伊方町国民健康保険瀬戸診療所
	宇和島市	あべ医院、上田小児科・外科、宇和島市国民健康保険日振島診療所、宇和島市国民健康保険日振島診療所喜路出張所、宇和島市国民健康保険日振島診療所能登出張所、宇和島市国民健康保険嘉島診療所、宇和島市国民健康保険蔦淵診療所、宇和島市国民健康保険下波診療所、宇和島市立津島病院、宇和島市国民健康保険戸島診療所、宇和島市国民健康保険遊子診療所
松野町	松野町国民健康保険中央診療所	
鬼北町	旭川荘南愛媛病院、大野内科医院、鬼北町立北宇和病院、鬼北町国民健康保険日吉診療所、鬼北町国民健康保険三島診療所	
愛南町	岡沢クリニック、浜口医院	
中核病院小児科 ^{注1} (小児科学会)	東温市	愛媛大学医学部附属病院
地域小児科センター ^{注1} (小児科学会)	新居浜市	県立新居浜病院
	今治市	県立今治病院
	松山市	県立中央病院、松山赤十字病院
	宇和島市	市立宇和島病院
地域振興小児科A ^{注1} (小児科学会)	八幡浜市	市立八幡浜総合病院
地域振興小児科B ^{注1} (小児科学会)	四国中央市	四国中央病院
高次機能病院 ^{注2}	東温市	愛媛大学医学部附属病院
連携強化病院 ^{注2}	新居浜市	県立新居浜病院

	今治市	県立今治病院
	松山市	県立中央病院、松山赤十字病院
	宇和島市	市立宇和島病院
連携病院 ^{注2}	四国中央市	四国中央病院
	西条市	西条中央病院
	今治市	済生会今治病院
	松山市	松山市民病院
	八幡浜市	市立八幡浜総合病院
	愛南町	県立南宇和病院

※えひめ医療情報ネットに登録がある医療機関を抽出したもので、個別の医療機関を推薦するものではない。
 ※えひめ医療情報ネットには医療機関が各種機能を登録するため、統計調査等と合計数が合わない場合がある。

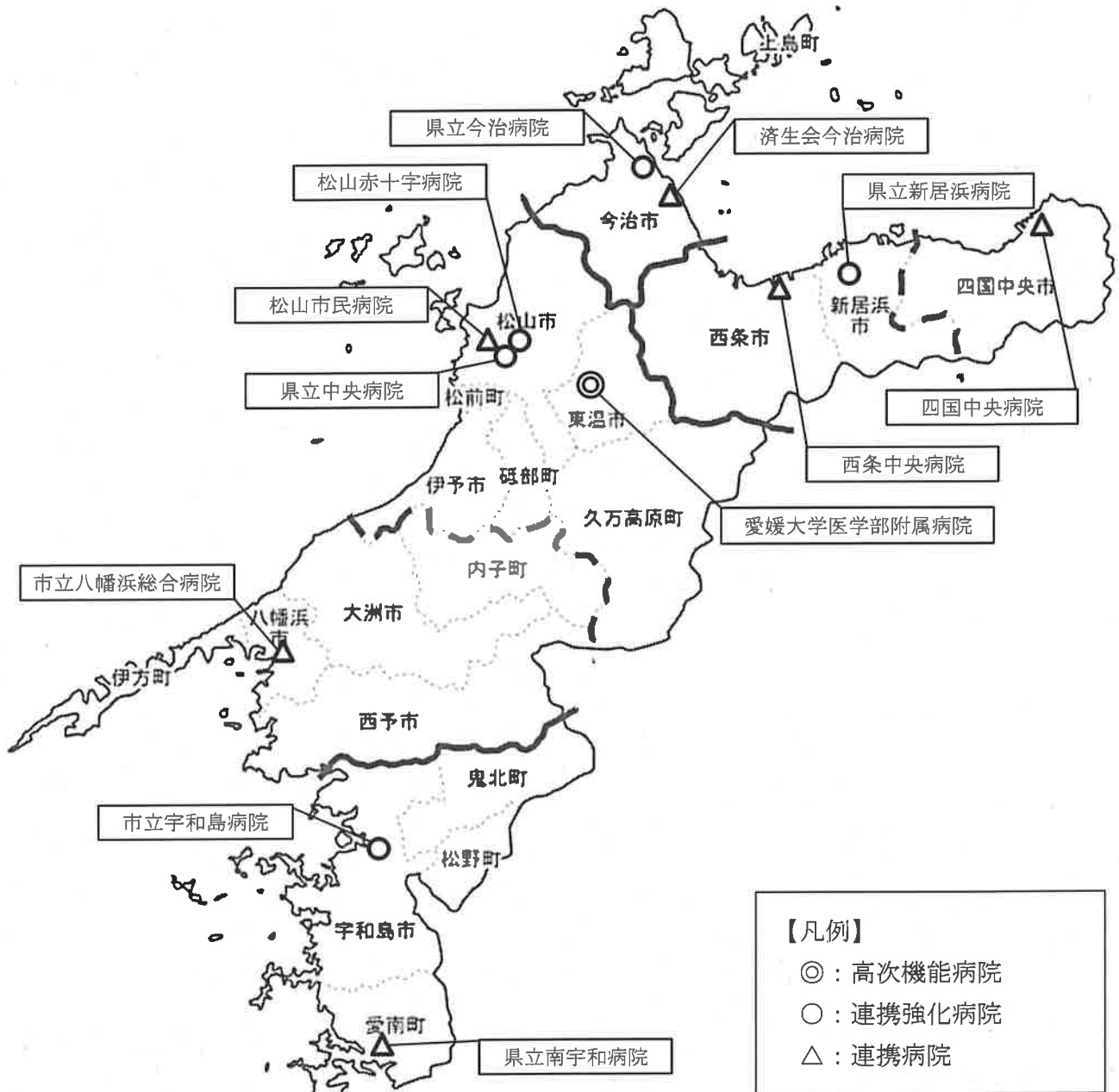
注 1) 日本小児科学会

機能	定義
中核病院小児科	他の中核病院小児科や地域小児科センターとネットワークを構築して網羅的・包括的な高次医療・三次医療を提供し、医療人材育成・交流等を含めて、地域医療に貢献するもので、大学病院（本院）及び総合小児医療施設（小児病院等）を想定。中核病院小児科及び地域小児科センター両方の機能を併せ持つ大学病院は「総合型中核病院小児科」として両方の機能を登録。「地域小児科センター」機能を持たない中核病院小児科は「専門型中核病院小児科」として登録。
地域小児科センター	24 時間体制で小児二次医療を提供し、原則として 1 つの地域小児医療圏（小児二次医療・小児保健事業を一体として行う圏域）に 1 か所を想定。ただし、地理的条件や対象人口等地域の実情に応じて決定。
地域振興小児科 A	中核病院小児科・地域小児科センターがない医療圏における最大の病院小児科で、地域小児科センターあるいは中核病院小児科からのアクセスが不良（車で 1 時間以上）であるもの。
地域振興小児科 B	中核病院小児科・地域小児科センターいずれかがある医療圏において、他の病院小児科医からアクセス不良（車で 1 時間以上）、地域に必須の小児保健機能、地域に必須の小児救急医療機能、地域に必須の新生児医療機能のいずれかの条件を満たすもの。

注 2) 「小児科・産科における医療資源の集約化・重点化の推進について」（平成 17 年 12 月 22 日付け医政発第 1222007 号・雇
児発第 1222007 号・総経第 422 号・17 文科高第 642 号厚生労働省医政局長・厚生労働省雇用均等・児童家庭局長・総
務省自治財政局長・文部科学省高等教育局長連盟通知）

機能	定義
高次機能病院	県内全域を対象に、高度医療等や診療支援を行うとともに、それらの機能を発揮するのに必要な医療従事者と施設設備を有するもの ①診療機能 ・高次機能を有し、高度な小児医療や幅広い分野の専門医療を行う。 ・小児の救命救急医療を 24 時間 365 日体制で実施する。 ②診療支援 ・連携強化病院等との連携により、高度専門的な診断・検査・治療を実施するとともに、人材の育成・交流を図る。 ・小児医療を担う医療施設に対し、医師派遣や研修、共同診療の場の提供等の支援を行う。
連携強化病院	小児医療圏の拠点として、専門医療や救急医療、診療支援を行うとともに、それらの機能を発揮するのに必要な医療従事者と施設設備を有するもの ①診療機能 ・小児医療の重要分野である神経、循環器、新生児の専門医療を行うとともに、他の連携強化病院と機能分担しつつ、小児医療圏に必要なその他の専門分野の小児医療を行う。 ・入院対応を必要とする救急について、24 時間対応する。 ・必要に応じて、NICU（新生児集中治療管理室）を設置し、地域周産期母子医療センターに相当する新生児医療の提供を行う。 ②診療支援 ・初期救急医療機関から転送された重症患者の受入等を行う。 ・地域の医師に、研修の機会や診療機器の共同利用、開放型病院としての機会等を提供する。
連携病院	地域の中核として、入院を含む一般的な小児医療に対応するとともに、それらの機能を発揮するのに必要な医療従事者と施設設備を有するもの ①診療機能 ・入院も含め、地域に必要な小児医療を行うとともに、連携強化病院と連携しつつ、地域に必要な専門医療を行う。 ②診療支援 ・必要に応じて、初期救急医療機関から転送された患者の受入等を行う。 ・必要に応じて、休日夜間の初期救急体制に参加する。 ・地域の医師に、診療機器の共同利用や共同診療の機会を提供する。

〔高次機能病院、連携強化病院及び連携病院の配置状況〕



小児医療

機能	施策	
相談支援等	1 かかりつけ医による子どもの健康や予防、病気の緊急時の対応などの相談	再掲 <input type="checkbox"/>
	関連データ	小児領域の一次診療を行う医療機関数(えひめ医療情報ネット) ↑ 乳幼児の育児相談を行う医療機関(えひめ医療情報ネット) ↑
	2 かかりつけ医や適切な救急受診等に関する普及啓発及び情報提供	再掲 <input type="checkbox"/>
	関連データ	救急の日及び救急医療週間における小児救急に関する普及啓発活動の実施している市町 ↑
	3 医療や福祉における適切なサービス提供のための保健・医療・福祉・教育等の連携	再掲 <input type="checkbox"/>
	関連データ	小児に対応している訪問看護ステーション数 ↑
	4 子どもの急病やケガに対する応急対処の方法や受診に関する相談を行う小児救急医療電話相談(＃8000)を実施	再掲 <input type="checkbox"/>
関連データ	＃8000の回線数・実施日 →	
5 心と体の健康センター等における心の問題を抱える子どもやその家族等に対するサポート	再掲 <input type="checkbox"/>	
関連データ	心と体の健康センター相談件数 ↑	
6 慢性疾患の診療が必要な子ども及びその家族に対する地域の医療資源サービス等の情報提供	再掲 <input type="checkbox"/>	
関連データ	＃8000の回線数・実施日 →	
7 肢体不自由児や重症心身障害児、自閉症児などの様々な障害に対する子ども療育センターにおける総合的なサービスの実施	再掲 <input type="checkbox"/>	
関連データ	子ども療育センター入所児数 ↑ 子ども療育センター外来患者数 ↑	

施策効果	
25 子どもの健康や予防、急病時の対応などについて相談できるとともに、適正な受療行動をとることができる	再掲 <input type="checkbox"/>
関連データ	＃8000の相談件数 ↑ 小児のかかりつけ医受診率 ↑

(最終)目的	
26 慢性疾患や心の問題等を抱える子どもが、医療や福祉、保健等が連携した総合的な支援を受けることができる	再掲 <input type="checkbox"/>
関連データ	小児在宅人工呼吸患者数 ↑

一般小児医療(初期小児救急・小児地域支援病院)	8 小児科医の確保・養成	再掲 <input type="checkbox"/>
	関連データ	小児科医師数 ↑
	9 日常的な小児医療が身近なところで受けられるよう地域の病院や診療所による小児医療提供体制の整備	再掲 <input type="checkbox"/>
	関連データ	小児科を擁する病院・診療所数 ↑ 小児歯科を擁する歯科診療所数 ↑ 小児領域の一次診療を行う医療機関数(えひめ医療情報ネット) ↑ 地域支援病院(地域振興小児科病院A・B) -
10 地域の病院・診療所と緊急手術や入院等を行う専門的な医療機関との連携促進	再掲 <input type="checkbox"/>	
関連データ	地域医療連携体制に関する窓口を有する小児科標榜施設 ↑ 在宅訪問診療を行う小児科標榜医療機関 ↑	
11 初期救急医療体制の充実	再掲 <input type="checkbox"/>	
関連データ	夜間・休日の小児科診療を実施している医療機関数 → 休日夜間救急センター数 → 在宅当番医制実施地区数 →	
12 かかりつけ医や適切な救急受診等に関する普及啓発及び情報提供	再掲 <input type="checkbox"/>	
関連データ	救急の日及び救急医療週間における小児救急に関する普及啓発活動の実施 ↑	

27 身近な地域で日常的な小児医療を受けることができる	再掲 <input type="checkbox"/>
関連データ	小児のかかりつけ医受診率 ↑ 小児人口あたり時間外外来受診回数 ↓

29 症状に応じて安心して子育てができる小児医療体制が整っている	→
関連データ	＃8000満足度 ↓ 小児人口あたり時間外外来受診回数 ↓ 乳児・幼児・小児の死亡率 ↓ 幼児・小児死亡数、死亡原因・発生場所死亡場所 ↓

小児専門医療(入院小児救急)	13 小児科医の確保・養成	再掲 <input type="checkbox"/>
	関連データ	小児科医師数 ↑
	14 入院等を行う専門的医療を提供できる小児医療提供体制の構築	再掲 <input type="checkbox"/>
	関連データ	小児外科手術に対応する医療機関数 ↑ 小児入院治療に対応する医療機関数 ↑ NICUを有する病室数・病床数 ↑ 小児地域医療センター -
	15 小児救急医療体制の整備の検討	再掲 <input type="checkbox"/>
	関連データ	夜間・休日の小児科診療を実施している医療機関数 ↑ 小児救急輸送体制構築地区数 ↑
	16 円滑な救急搬送体制の整備と医療機関・消防等との連携体制の構築	再掲 <input type="checkbox"/>
	関連データ	MC協議会開催回数 ↑
	17 円滑な退院等のための地域の医療機関との連携体制の構築	再掲 <input type="checkbox"/>
	関連データ	地域医療連携体制に関する窓口を有する小児科標榜施設 ↑ 在宅訪問診療を行う小児科標榜医療機関 ↑
18 地域の医療機能の分化・連携の推進	再掲 <input type="checkbox"/>	
関連データ	地域医療構想調整会議の開催回数 ↑	

28 症状に応じた専門的医療を受けることができる	再掲 <input type="checkbox"/>
関連データ	救急入院患者数 ↑ 緊急気管挿管を要した患者数 ↑ 小児救急搬送症例のうち受け入困難事例の件数 ↓ 特別児童扶養手当数 ↑ 障害児福祉手当交付数 ↑ 身体障害者手当交付数(18歳未満) ↑

機能	施策	施策効果	(最終)目的
高度小児専門医療（小児救命救急医療）	19 小児科医の確保・養成 関連データ 小児科医師数	再掲 □ ↑	
	20 重篤な患者に対して高度な医療が提供できる医療体制の整備 関連データ 小児中核病院 NICUを有する病院数・病床数 PICUを有する病院数・病床数 救命救急センター数	再掲 □ — ↑ ↑ —	
	21 円滑な退院等のための地域の医療機関との連携体制の構築 関連データ 地域医療連携体制に関する窓口を有する小児科構想施設	再掲 □ ↑	
	22 円滑な救急搬送体制の整備や災害時の障がい児・NICUの新生児等への対応に係る医療機関・消防等との連携体制の構築 関連データ MCI協議会開催回数	再掲 □ ↑	
	23 ドクターヘリによる広域的救急搬送体制の構築 関連データ ドクターヘリの要請件数・出動件数	再掲 □ ↑	
	24 地域の医療機能の分化・連携の推進 関連データ 地域医療構想調整会議の開催回数	再掲 □ ↑	

- ・再掲している施策等は、再掲欄の□で表示
- ・関連データの矢印は、当該データの方向性を示す